

平成21年3月31日現在

研究種目：特別推進研究
 研究期間：2005～2008
 課題番号：17002002
 研究課題名（和文） アジアバロメーターを通じたアジア人の生活・規範・価値の実証研究
 研究課題名（英文） Empirical Studies of Lifestyles, Norms, and Values as Held by Ordinary Peoples in Asia Based on the AsiaBarometer Survey
 研究代表者
 猪口 孝（INOUCHI TAKASHI）
 中央大学・法学部・教授
 研究者番号：30053698

研究成果の概要：

2008年度調査が完了したことで、世界で初となるアジア29の国と社会に暮らす「普通の人々の日常生活」に関する膨大なデータが出来上がった。29カ国の国別プロフィール分析論文の刊行に加えて、比較政治学、比較社会学、国際関係論、医学などの幅広い学問分野で比較分析が行われ、多くの命題が仮説検証された。これらの多くは国内外の査読付き雑誌に掲載され、中には非常に高い評価を受けた書籍や論文もある。本プロジェクトのホームページでは現在2007年度調査までのすべてのデータが一般公開されている。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	47,600,000	14,280,000	61,880,000
2006年度	68,880,000	20,664,000	89,544,000
2007年度	66,750,000	20,025,000	86,775,000
2008年度	64,100,000	19,230,000	83,330,000
年度			
総計	247,330,000	74,199,000	321,529,000

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：社会科学・政治学・政治学

キーワード：日常生活、世論調査、比較研究、アジア、アイデンティティ、信頼、しあわせ、満足

1. 研究開始当初の背景

本研究対象となるアジア社会は時に「実証社会科学体系的データの砂漠」と言われ、その背景となる研究分野の進展状況は遅々としている。実証的な社会科学研究を進展させるためには、経験的なデータの累積と公開利用が不可欠である。実証的社会科学の分野において、米国では半世紀、欧州では30年の歴史を持っているが、日本そしてアジアでは、人間の社会生活について体系的に集められた経験的なデータの累積は著しく不十分で

ある。韓国やインド、フィリピンなどで個々に国内で真剣に取り組まれてはいるが、文化横断的・体系的にはまだまだ未発達である。

アジア・バロメーターは、「アジアの普通の人々の日常生活」について大規模に実施する世論調査に基づいた研究計画である。人権状況や民主主義の展開など欧米で大きな関心を得やすいテーマについては欧米研究者がアジアでも積極的に展開しているが、普通の人々の生活・規範・価値観を物理的、社会的にも捉えようとする研究はおそらく多

く存在していないし、アジア社会を世論調査で横断的体系的にデータ化することは二、三の例外を除いては行っていない。また、アジア地域研究においても、アジア社会を横断的体系的にデータ化することは稀である。

2. 研究の目的

本研究計画は「アジアの普通の人々の日常生活」に焦点をあて、欧米の世論調査と比較できる方法を使いながら、アジア社会の歴史的、社会的、経済的、政治的、文化的、言語的な特異性を十分に配慮した研究設計によって、アジア社会の貴重な世論調査データを作成する。そして学術的分析成果を発表し、さらにアーカイブに保存することにより、全世界でその成果を共有することを目的としている。

ここでの「普通の人々の日常生活」とは、日頃何について悩んでいるか、子供はどのような人になることを親は望んでいるか、夕食は家族と一緒にするかといったものである。このような質問から、普通の人々がどのような満足、心配、希望、欲望などを持っているかを日常生活の社会的物理的な側面とともに体系的に把握しようとするものである。

本研究計画は、概念的にも方法的にも欧米の比較世論調査を参照しつつ、アジア地域研究者と交流し、ワークショップを開催することを基本とする。同時に、欧米の概念化や欧米の方法の単純な応用では把握しにくいアジア特有の特異性を十分に考慮した概念化と方法の使用によって、世界レベルの欧米比較政治学者とアジア地域研究学者の両方に通用するデータを作成し、分析成果を発表し、アーカイブに蓄積していく。すなわちアジア社会における実証社会科学の体系的データを生み出し、実証社会科学の研究インフラを整備・構築することを企図している。

3. 研究の方法

代表者は、2002年度にアジア・バロメーターを概念的に提唱し、2003年度に本研究計画のパイロット的世論調査を企業からの奨学金を使いアジア10カ国（中国、インド、日本、韓国、マレーシア、ミャンマー、スリランカ、タイ、ウズベキスタン、ベトナム）で実施した。この研究成果は2005年3月に英文学術書（ソースブック）として刊行した。2004年度は、第2回目のパイロット的世論調査を東南アジア諸国連合と日韓中の13カ国で、外務省アジア大洋州局と東京大学東洋文化研究所の資金により実施した。このように研究代表者は概念化、調査実施、研究分析、そして成果刊行を主導して行った。おおまかな研究スケジュールは次の通りである。

- (1) 全体計画の進捗を監視する。
- (2) 鍵となる質問票を作成・改定する。

(3) 標準となる英語質問票を現地語質問票に翻訳する作業のチェックをする。

(4) 現地世論調査実施の進捗を監視する。

(5) 国別プロフィール論文と比較分析論文を執筆する。

(6) 上記論文をワークショップで討論する。

(7) 上記論文をディスカッション・ペーパーとして刊行する。

(8) 研究成果を英文学術論文（年次報告書）の形で刊行した。

(9) 研究成果を内外の学会・シンポジウムなどで積極的なディセミネーション活動を実施した。

(10) 計画を反省して次年度の計画を策定する。

現地世論調査会社は、現地国政府と明白な癒着がないことと、国際的にも学術的にも信頼できる実績があることを条件に選定した。

海外研究協力者は、一年一回質問票作成ワークショップと分析ワークショップに参加した。

2005年度調査対象国：中央アジア7カ国（アフガニスタン、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、モンゴル）南アジア7カ国（インド、スリランカ、パキスタン、バングラデッシュ、ネパール、ブータン、モルディブ）；2006年度調査対象国：東アジア7社会（日本、中国、韓国、台湾、香港、ベトナム、シンガポール）；2007年度調査対象国：東南アジア7カ国（インドネシア、カンボジア、ミャンマー、ラオス、タイ、マレーシア、フィリピン）；2008年度調査対象国：日本、中国、インド、アメリカ、ロシア、オーストラリア。米、露、オーストラリアについては、地理的だけでなく、機能的アジアもアジアと考えた。

4. 研究成果

(1) 国別プロフィール研究について

2005年度調査対象国14カ国を分析した国別プロフィール分析論文は現地の社会科学者によって執筆され、2008年3月に刊行されたソースブック（図書4番）に掲載されている。その日本語版（図書2番）は2009年2月に刊行された。

2006年度調査対象国8カ国と2007年度調査対象国8カ国についての現地研究者による国別プロフィール論文は、2009年3月に刊行されたソースブック（図書1番）に掲載されている。

さらに本研究期間中に、2003年度調査の日本語版が2005年7月に刊行された。2004年度調査対象国13カ国の国別プロフィール論文が収録された2004年度ソースブック英語版（図書12番）は2006年3月に刊行された。その日本語版（図書9番）は2007年8月に刊行された。

(2) 仮説検証的・比較分析研究について

アジア・バロメーターのデータを使った仮説検証的な研究は主に、日米の研究者が担当した。ここでは次の5つの研究テーマで得られた知見を挙げる。

①比較政治学：東アジアでは、伝統的な社会資本（信頼）がグローバル化によって後退し、逆に一般化された社会資本は増大するという命題が実証された。

マクロな政治体制の制度的な累積が、ミクロの個人の人々の政治体制選好を統計学的に有意に規定するという命題が実証された。

②比較社会学：アジアでは多くの価値観をめぐっては、国家間の相違が階級・階層よりもはるかに大きいという命題が実証された。

旧英米植民地では、英語力、高所得、市場自由化が連結しているのに対して、その他では英語力が高所得に連結せず、伝統的価値観も保持されがちという命題が実証された。

中国の都市住民の中では、低所得者層の方が外来人口の流入に対して強い抵抗感を持つ。都市中間層は確実に拡大しているが、その多くは民主化の積極的な担い手というよりは現状維持を求める保守的な性格を持つ。地方政府に対する評価は低いが、中央政府の能力に対する信頼性は概して高い。

③国際関係：日本からよい影響を受けていると感じている回答者の割合が一番低いのは中国、二番目に低いのが韓国なので、日本の外交政策が直面している課題の一つは、隣国との関係をどう改善するかである。

中国の内陸に住む低所得層の人々は、湾岸に住む高所得層の人々よりも、日本から悪い影響を受けていると感じる傾向がある。

④生活の質：東アジアにおける生活の質は、儒教的な価値観によって規定されるよりも、世界の他の地域の人々と大きく変わらない要因（所得、地位、ライフスタイルなど）が統計的に有意であることが実証された。

日本の生活の質に重要なのは、民主主義体制や社会保障システムなど公的な領域に対する満足度ではなく、友人関係や結婚生活など脱物質的な領域に対する満足度である。

⑤健康：アジア 29 カ国では人々の健康に対する満足度はメディアに対する信頼と相関関係にあることが統計的に実証された。メディアに対する信頼度を向上させることは、人々の健康促進につながる。

(3) アジア研究のインフラ構築について

①世界では初となるアジア 29 の国・社会と機能的なアジア 3 カ国の計 32 カ国に暮らす「普通の人々の日常生活」に関する精密で体系的で膨大なデータが完成した。その標本総数は 52215 になった。アジア 29 の国と社会の標本総数は 49158 である。

②2005 年度に立ち上げた本研究プロジェクト専用ウェブサイトは、情報発信基地として 2007 年度に大幅な改良が加えられた。まずデータアーカイブとして、商用認証局から公開鍵証明書を購入し、審査・承認システムを導入することにより、より迅速でより効率的なデータ配布システムを構築した。現在、本ウェブサイトでは 2003 年度から 2007 年度調査の原データが一般公開されている。また、2006 年度調査までのすべての質問に対する単純集計グラフが掲載されている。

③ミシガン大学 ICPSR と東京大学社会科学研究所のデータアーカイブで 2004 年度調査までのデータが一般公開されている。

(4) 国内外における位置づけとインパクト
国別プロフィール論文が収録されている年次報告書（ソースブック）は、国内外から高い評価を得ている。カリフォルニア大学アーバイン校のラッセル・ダルトン教授によれば、「2004 年度調査は情報の宝庫である。」ベルリン社会科学センターのハンス・ディーター・クリングマンは、本書はまさに「必読書」であると述べている。

マーシャル・ブートン The Chicago Council of Global Affairs 会長によれば「2005 年調査はユニークで、非常に時宜を得た貢献をしている。」河東哲夫早稲田大学客員教授によれば、アジア・バロメーター・ソースブックは「毎年刊行されており、既にアジアの情報を分析・予測する上で欠くことができないリソースブックとみなされている。」

比較分析研究に関しては、政治学、社会学、国際関係論、医学など、幅広い学問分野で様々な命題が検証されている。これらの分析結果はソースブックにも一部収録されているが、その多くは国内・国外の査読付き雑誌に掲載され、また書籍として刊行され、中には国内外で高い評価を受けたものもある。例えば、園田茂人による『不平等国家中国：自己否定した社会主義のゆくえ』（図書 5 番）は社団法人アジア調査会より「第 20 回アジア・太平洋賞特別賞」を受賞した。猪口孝は『アジア・バロメーターを通じた国際学術発信・討論の制度作り』という研究テーマで、2006 年に第 5 回国際コミュニケーション基金優秀研究賞を受賞した（雑誌論文 26 番）。徳田、神馬、藤井、猪口による BMC Medicine Vol. 7, No. 3, 2009（雑誌論文 7 番）は、2009 年 1 月 27 日の時点で BMC Medicine のウェブサイト上で Featured articles として取り上げられた。さらに、Englemed Health News（2009 年 1 月 22 日付）や Maldives News（同 1 月 24 日付）などの海外の多くの新聞で分析結果が紹介された。

本プロジェクトのウェブサイトからの原データダウンロードの状況を詳しく見てみ

ると、大学の教師や研究者、学生だけでなく、企業に勤める投資家なども含む、世界中の人々によってデータがダウンロードされている。2009年5月21日の時点でその数は約550名である。そして、研究代表者・研究分担者・連携研究者・研究協力者だけでなく、その他の世界中の研究者やマスコミ等による、本プロジェクトのデータを分析したり、分析結果を引用したり、本プロジェクトを説明・言及したりした刊行済みの文献の数は同時点で262に上る。

(5) 今後の展望

アジア29カ国と機能的アジア3カ国の計32カ国の調査が完了したのが2008年夏なので、今後の展望としては、2003年度調査から2008年度調査すべての統合データを用いた分析を通して、アジア全域における様々な命題のさらなる一般化が今後期待される。

そして、2009年度中に6年分の調査の原データすべてが本プロジェクトのウェブサイトで公開される予定である。さらに、すべての質問に対する単純集計グラフおよび6年分の時系列グラフも公開される予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計31件)

- (1). Inoguchi, Takashi and Doh Chull Shin, "The Quality of Life in Confucian Asia: From Physical Welfare to Subjective Well-being," *Social Indicators Research*, Vol. 92, No. 2, 183-190 頁、2009年、査読有。
- (2). Shin, Doh Chull and Takashi Inoguchi, "Avowed Happiness in Confucian Asia: Ascertaining its Distribution, Patterns, and Sources," *Social Indicators Research*, Vol. 92, No. 2, 405-427 頁、2009年、査読有。
- (3). Hotta, Zen-U L., and Takashi Inoguchi, "Psychometric Approach to Social Capital: Using AsiaBarometer Survey Data in 29 Asian Societies," *Japanese Journal of Political Science*, Vol. 10, Pt., 1, 129-139 頁、2009年、査読有。
- (4). Inoguchi, Takashi and Seiji Fujii, "The Quality of Life in Japan," *Social Indicators Research*, Vol. 92, No. 2, 227-262 頁、2009年、査読有。
- (5). 園田茂人「『アジア・バロメーター』に見るアジアのカタチ：第5回 アジア地域間協力のゆくえ」『ワセダアジアレビュー』、5号、34-37 頁、2009年、査読無
- (6). 白石隆、猪口孝「国際社会に果たす

アジアと日本の役割」『潮』、601、58-67 頁、2009年、査読無

- (7). Tokuda, Yasuharu, Seiji Fujii, Masamine Jimba and Takashi Inoguchi, "The relationship between trust in mass media and the healthcare system and individual health: evidence from the AsiaBarometer Survey," *BMC Medicine*, Vol. 7, No. 4, 2009, Published online, 査読有
- (8). 園田茂人「『アジア・バロメーター』に見るアジアのカタチ：第4回 食からアジアの変化を読み解く」『ワセダアジアレビュー』、4号、42-45 頁、2008年、査読無
- (9). 園田茂人「アジアの中のアジア人意識」『ワセダアジアレビュー』、3号、28-31 頁、2008年、査読無
- (10). Inoguchi, Takashi and Satoru Mikami, "Legitimacy and effectiveness in Thailand, 2003-2007: perceived quality of governance and its consequences on political beliefs," *International Relations and Asia-Pacific*, Vol. 8, No. 3, 279-302 頁、2008年、査読有
- (11). Tokuda, Yasuharu and Takashi Inoguchi, "Trust in the Mass Media and the Healthcare System, Interpersonal Trust and Self-Rated Health: A Population-Based Study in Japan," *Asian Journal of Epidemiology*, Vol. 1, No. 1, 29-39 頁、2008年、査読有
- (12). Tokuda, Yasuharu and Takashi Inoguchi, "Interpersonal Mistrust and Unhappiness Among Japanese People," *Social Indicators Research*, Vol. 89, No. 2, 349-360 頁、2008年、査読有
- (13). Tokuda, Yasuharu, Masamine Jimba, Haruo Yanai, Seiji Fujii and Takashi Inoguchi, "Interpersonal Trust and Quality-of-Life: A Cross-Sectional Study in Japan," *PLoS ONE*, Vol. 3, Iss. 12, 1-10 頁、2008年、査読有。
- (14). 園田茂人「『アジア・バロメーター』に見るアジアのカタチ：第2回東アジアの対外イメージ(2)」『ワセダアジアレビュー』、2号、34-37 頁、2007年、査読無
- (15). 園田茂人「『アジア・バロメーター』に見るアジアのカタチ：第1回東アジアの対外イメージ(1)」『ワセダアジアレビュー』、1号、30-33 頁、2007年、査読無
- (16). Dadavaev, Timur, "How does transition work in Central Asia? Coping with ideological, economic and value system changes in Uzbekistan," *Central Asian Survey*, Vol. 26, No. 3, 407-428 頁、2007年、査読有
- (17). Dadabaev, Timur, "Trajectories of Political Development and Public Choices

in Turkmenistan," *Asian Affairs: An American Review*, Vol. 34, No. 3, 131-150 頁、2007 年、査読有

(18). Inoguchi, Takashi, "The AsiaBarometer Survey Questionnaire of 2006," *Japanese Journal of Political Science*, Vol. 8, Pt. 3, 427-453 頁、2007 年、査読有

(19). Inoguchi, Takashi, Sanjay Kumar, and Satoru Mikami, "Macro-Political Origins of Micro-Political Differences: A Comparison of Eleven Societies in East and South Asia," *Japanese Journal of Political Science*, Vol. 8, Pt. 3, 387-408 頁、2007 年、査読有

(20). Inoguchi, Takashi, Satoru Mikami, and Seiji Fujii, "Social Capital in East Asia: Comparative Political Culture in Confucian Societies," *Japanese Journal of Political Science*, Vol. 8, Pt. 3, 409-426 頁、2007 年、査読有

(21). Inoguchi, Takashi, "Japan's LDP: Shaping & Adapting to 3 Distinctive Political Systems: Military Occupation, Fast Economic Development & Accelerating Globalization," *Japan Spotlight Bimonthly*, Vol. 26, No. 2, 41-45 頁、2007 年、査読無

(22). Tanaka, Akihiko, "L'opinion des Asiatiques sur le Japon reste mitigée," *CAHIERS DU JAPON*, AUTOMNE, 39-42 頁、2007 年、査読無

(23). 田中明彦 「「いい顔」と「怖い顔」—二つの顔の行方」『朝日総研レポート AIR21』、No. 203、20-39 頁、2007 年、査読無

(24). 田中明彦 「日本外交の勝利と課題：世論調査「アジア・バロメーター」から明らかになったアジア各国の視点」『論座』、142 号、98-103 頁、2007 年、査読無

(25). Reed, Steven R., "Analyzing Secularization and Religiosity in Asia," *Japanese Journal of Political Science*, Vol. 8, Pt. 3, 327-339 頁、2007 年、査読有

(26). 猪口孝 「アジア・バロメーターを通じた国際学術発信・討論の制度作り」、『財団法人国際コミュニケーション基金機関誌』25 号、4-5 頁、2007 年、査読無

(27). Inoguchi, Takashi and Zen-U Lucian Hotta, "Quantifying Social Capital in Central and South Asia: Are There Democratic, Developmental, and Regionalizing Potentials?" *Japanese Journal of Political Science*, Vol. 7, Pt. 2, 195-220 頁、2006 年、査読有

(28). 猪口孝 「日本は遵法社会ではなかったか？」『学術の動向』日本学術協力財団、11 巻 3 号、80-83 頁、2006 年、査読無

(29). 園田茂人 「現代中国におけるナショナリズム台頭の位相」『比較文明』、22 号、76-89 頁、2006 年、査読無

(30). 園田茂人 「時評／反日デモの『後遺症』と小泉首相の靖国参拝」『アジア時報』、418 号、2-3 頁、2006 年、査読無

(31). 田中明彦 「『アジア諸国における各国に対する影響力の認知について』共通世論調査分析」『アジア時報』、37 巻 5 号、20-45 頁、2006 年、査読無

[学会発表] (計 7 件)

(1). 猪口孝、アジア・バロメーター国際学術会議及び公開シンポジウム、2007 年 12 月 13 日、東京大学山上会館

(2). Shin, Doh Chull and Takashi Inoguchi, Panel Session: "The Quality of Life in Confucian Asia," The 2007 Conference of the International Society for Quality-of-Life Studies, 2007 年 12 月 6-9 日、San Diego Marriott Mission Valley, San Diego, California, USA

(3). 猪口孝、「みる」立場から アジア・バロメーター調査—目的・射程・発展—、地域研究コンソーシアム年次集会『地域分析と技術移転の接点』、2007 年 11 月 10-11 日、東北大学片平さくらホール (宮城県仙台市)

(4). Inoguchi, Takashi, "Predicting Regime Preference of Ordinary People: Using Survey Data in East and South Asia," Toward Political and Social Research with Asian Identity, The Asia Consortium for Political Research, 2007 年 8 月 3-4 日、Sungkyunkwan University and Seoul National University, Seoul, South Korea

(5). Inoguchi, Takashi, Invited Session: "AsiaBarometer Survey," The 15th International and 72nd Annual Meeting of the Psychometric Society, 2007 年 7 月 10 日、Tower Hall Funabori、東京

(6). 猪口孝、アジア・バロメーター公開シンポジウム、2006 年 10 月 19 日、(社)日本記者クラブ、東京

(7). 猪口孝、アジア・バロメーター国際学術会議及び公開シンポジウム、2006 年 2 月 23-24 日、(社)日本外国特派員協会、東京

[図書] (計 12 件)

(1). Inoguchi, Takashi, ed., Akashi Shoten, *Human Beliefs and Values in East and Southeast in Transition: 13 Country Profiles Based on the AsiaBarometer Surveys of 2006 and 2007*, 2009 年、314 頁。

(2). 猪口孝、編著、明石書店、『アジア・バロメーター 南アジアと中央アジアの価値観 アジア世論調査 (2005) の分析と資料』、2009 年、468 頁

- (3). Valerie Møller, Denis Huschka and Alex C. Michalos 編 (Inoguchi, Takashi and Seiji Fujii), Netherlands: Springer, *Barometers of Quality of Life Around the Globe: How Are We Doing?* (担当 8 章 The AsiaBarometer: Its Aim, Its Scope and Its Development) 2009 年, 187-232 頁
- (4). Inoguchi, Takashi, ed., Akashi Shoten, *Human Beliefs and Values in Incredible Asia: South and Central Asia in Focus: Country Profiles and Thematic Analyses Based on the AsiaBarometer Survey of 2005*, 2008 年, 428 頁。
- (5). 園田茂人、中公新書、『不平等国家 中国: 自己否定した社会主義のゆくえ』、2008 年、200 頁。
- (6). 園田茂人、岩波書店、『中国社会はどこへ行くか: 中国人社会学者の発言』岩波書店、2008 年、217 頁。
- (7). 田中明彦、NTT 出版、『アジアのなかの日本』2007 年、359 頁
- (8). Russell J. Dalton and Hans-Dieter Klingemann (Inoguchi, Takashi), Oxford University Press, *Oxford Handbook of Political Behavior* (担当 13 章 Clash of Values across Civilizations), 2007 年, 240-258 頁
- (9). 猪口孝、田中明彦、園田茂人、ティムール・ダダバエフ編著、明石書店、『アジア・バロメーター 躍動するアジアの価値観 アジア世論調査 (2004) の分析と資料』、2007 年、605 頁
- (10). 西川潤・平野健一郎編 (園田茂人)、岩波書店、『東アジア共同体の構築 第 3 巻 国際移動と社会変容』(担当論文「都市中間層の台頭と新たなアイデンティティの形成?」)、2007 年、287~301 頁
- (11). 西川潤・蕭新煌編 (園田茂人)、明石書店、『東アジアの社会運動と民主化』(担当論文「民主化動因としてのアジア中間層の実体」)、2007 年、224~243 頁
- (12). Inoguchi, Takashi, Akihiko Tanaka, Shigeto Sonoda and Timur Dadabaev, eds., Akashi Shoten, *Human Beliefs and Values in Striding Asia: East Asia in Focus: Country Profiles, Thematic Analyses and Sourcebook based on the AsiaBarometer Survey of 2004*, 2006 年、579 頁

[その他]

(1) ホームページ

<https://www.asiabarometer.org/>

(2) 猪口孝、NHK 視点・論点出演

- ①「アジア・バロメーター」2005 年 7 月 15 日 ②「世論に見る国別価値観」2005 年 11 月 7 日 ③「親が娘に送る期待」2006 年 3 月 13 日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

猪口 孝 (INOBUCHI TAKASHI)

中央大学・法学部・教授

研究者番号: 30053698

(2) 研究分担者

ダダバエフ ティムール (TIMUR DADABAEV)
筑波大学・大学院人文社会科学研究科国際日本研究専攻・准教授

研究者番号: 10376626

(平成 17 年度のみ)

加藤 淳子 (KATO JUNKO)

東京大学・大学院法学政治学研究科・教授

研究者番号: 00251314

(平成 17 年度から平成 18 年度まで)

(3) 連携研究者

田中 明彦 (TANAKA AKIHIKO)

東京大学・大学院情報学環・教授

研究者番号: 30163497

(平成 17 年度から平成 19 年度まで研究分担者、平成 20 年度から連携研究者)

久保 文明 (KUBO FUMIAKI)

東京大学・大学院法学政治学研究科・教授

研究者番号: 00126046

(平成 17 年度から平成 19 年度まで研究分担者、平成 20 年度から連携研究者)

原田 至郎 (HARADA SHIRO)

東京大学・大学院情報学環・准教授

研究者番号: 10282708

(平成 17 年度から平成 19 年度まで研究分担者、平成 20 年度から連携研究者)

リード スティーブン (S・R・REED)

中央大学・総合政策学部・教授

研究者番号: 10256018

(平成 17 年度から平成 19 年度まで研究分担者、平成 20 年度から連携研究者)

園田 茂人 (SONODA SHIGETO)

早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・教授

研究者番号: 10206683

(平成 17 年度から平成 19 年度まで研究分担者、平成 20 年度から連携研究者)

工藤 裕子 (KUDO HIROKO)

中央大学・法学部・教授

研究者番号: 90278383

(平成 17 年度から平成 19 年度まで研究分担者平成 20 年度から連携研究者)

玄 大松 (HYUN DAESONG)

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号: 70431830

(平成 18 年度から平成 19 年度まで研究分担者、平成 20 年度から連携研究者)